

■■■ 新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。 ■■■

セヘ ポンマニ パドウブシヨ（新年たくさん福をうけとってください）

昨年秋にNHKの取材が入った時、番組づくりの一環として在日外国人を対象としたアンケートがあり質問として「日本に暮らしていて良いところは」という項目がありました。「平和であること」と回答しました。

今年で日本は戦争から離れて70年になります。70年も平和を続けてこられているのは、平和を守る努力を続けている人のおかげです。

昨年は、近隣への憎悪と在日マイノリティへの排除をたぎらせるヘイトクライムの跋扈、スポーツにも「JAPANESE ONLY」という排他的ナショナリズムが持ち込まれたり平和から遠ざかる残念なことが起きました。

戦後70年、平和の価値を伝え平和を守る努力が必要です。

今年もKFCは、平和の基礎となるマイノリティの人権や生活を守ることに力を尽くし平和を守る努力を続けている側でありたいと思います。

（理事長 金 宣 吉）

ヨロブン、セボク マ〜ニ パドウセヨ!!

KFCの皆さん、新年明けましておめでとうございます。

去年は、仕事はしっかりやれてよかったです。しかし、残ったしんどさは何なんでしょうね？一生懸命やまじめが報われない？そんなの「ダメよダメダメ」ですよ。我々はひたすらまじめに明るく歩んで行きましょう……。 （副理事長 李 圭 燮）

明けましておめでとうございます。

フィギュアスケートファンの私にとって、2014年はソチオリンピックの浅田真央選手に翻弄され（号泣させられ）、長年応援してきた多くの選手が引退し、若手スケーターの台頭を目の当たりにした年でした。羽生選手のちょっと「日本」を背負いすぎる発言が、簡単にナショナリズムに回収されることがないように、人種や民族、国籍に関係なく好きなスケーターを応援できる社会であることを願うばかりです。今年もよろしく御願います！ （理事 野崎 志帆）

先日亡くなった菅原文太さんのTVドラマの代表作に、『獅子の時代』（1980年）という作品があります。会津藩出身の青年が、幕末のパリ体験に始まり、戊辰戦争での敗戦や北海道での服役・脱走を経て、最後には1884年の秩父困民党の蜂起に参加し、官憲の弾圧の中で姿を消すまでを描いた作品です。私は12歳だった一年間、このドラマから大きな影響を受けたため、最晩年の文太さんの捨て身の政治社会活動が、このドラマの主人公の姿と重なって見えていました。今後もその意味を反芻しながら生きていくことになるような気がします。

（理事 樋口 大祐）

++

あけましておめでとうございます。

今年は未年。我が家では、次男が年男です。

昨年は国際フォーラムで韓国釜山で発表する機会を得、又10月からはNHKのE-テレビの取材を職場が受けるなど、『多文化・共生』について深く考えさせられる1年であり、刺激的な年でした。

本来『多文化・共生』の理念は日本の課題であり、日本人が実践しなければいけない事だと思っています。 （理事 山根 香代子）

阪神・淡路大震災から20年が過ぎました。KFCもそれにあわせ、外国人の定住のため

様々な事業を展開し、多大な成果を上げてきました。これからも多文化共生社会での定住外国人の権利擁護のために、KFCの活動に貢献できるようがんばります。今年もよろしく御願います。 （理事 吉井 正明）

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆研修会+交流会『中国残留孤児国家賠償請求訴訟とその後の課題』

9月6日に続き、11月27日（木）朝霧生協会館で研修会を開催しました。

講師は、中国残留日本人孤児を支援する兵庫の会（略称：支援の会）事務局長の水野浩重さんと、学園都市ユニティ、明石コミセン、尼崎コスモス、KFC、岡本、朝霧の6つの日本語教室から23名の参加がありました。

水野さんは、1931年満州事変から2008年4月新支援策開始までの残留孤児関連年表に沿って、「20年計画で100万戸500万人」という国策による満蒙開拓に参加した32万人余りの開拓団民の悲劇的な経過を説明しました。

敗戦後、悲惨な逃避行の中で、集団自決や飢えと寒さによる衰弱死が相継ぎます。こうして父母を失い孤児となり、中国人養父母に育てられた残留孤児は、国の対策の遅れから、80年代後半から90年代にかけてようやく帰国を果たしますが、辛酸をなめつくした帰国者たちに、祖国は冷たかった。小泉訪朝後、帰国した拉致被害者に対する厚い支援とは雲泥の差です。

日本人としての尊厳回復のために、2002年12月以降、国家賠償を求めて東京地裁はじめ全国各地で提訴が相継ぎます。兵庫県は2004年3月65名の原告により神戸地裁に提訴。強力な弁護士と日中友好協会兵庫県連を中心に多くの市民が、この裁判闘争を支援しました。

各地裁で原告敗訴の判決が続きましたが、2006年12月1日神戸地裁で原告勝訴の画期的な判決があり、政府も世論に押され、ようやく動きます。

2007年11月「改正中国残留邦人支援法」が成立し、不十分ながら一世の生活はかなり改善しました。

「支援の会」は2007年3月、神戸で成立。帰国者が「日本に帰ってきてよかった」と実感できるように、日本語教室はじめ、さまざまな支援を続け今日に至っています。

しかし、二世に対しては、当初から国の支援が一切なく、今後の切実な課題です。1972年国交回復時に政府が速やかに行動を起こしていれば、残留孤児は30歳前後、その子どもはまだ幼い、現在の深刻な二世問題はありえなかったはずなのです。 （斉藤 晋）

◆2014年度日本語学習支援アドバイザー派遣研修

「学習者の目標に向けてのカリキュラム作り」報告。

兵庫県国際交流協会登録日本語教師、矢谷久美子先生の研修会が行われました。

第1回目は、11月8日『目標に向けてのいろいろな支援方法』、第2回目は、12月13日『支援計画を立てよう』でした。

まず、日本で暮らす外国人に必要な日本語とは？

支援を始める時に学習者がどのようなニーズを持っているかを確認します。「いつ・どこで・誰と日本語を話しますか？話さなければなりませんか？」。何を学びたいのか、日本語が上手くなるには何が必要なのか、支援者が学習者から情報を引き出すことが大切です。

次に、活動する為にどのような準備が必要か？

話す活動では、基礎的な言葉と文型を身につける初級の文型を使った活動テキストとして、「みんなの日本語」以外に、地域日本語教室で初めて日本語を学ぶ学習者向けの「いっぽ にほんご さんぽ 暮らしの日本語教室初級Ⅰ・Ⅱ」や、対話型（おしゃべり）活動の為に教材を沢山紹介して頂きました。

読む活動では、文字学習の必要性や音読と黙読による内容理解の違いについて、また、素材を使ってどのように活動すれば良いかを学びました。そして、一人対一人の日本語支援活動であっても、学習者の希望と日本語能力に沿った学習計画（学習目標/ゴール・学習期間・教材）の必要性と作成方法について、学習者の環境や日本語レベル毎での具体的な計画を考える研修をしました。

（私が印象に残ったこと）

■読む活動についての誤解しがちな事

学習者に初見の文章を声に出して読んでもらっている場合に、支援者は、音読することで同時に意味も理解できていると勘違いしてしまいがちです。でも実際には、学習者は字を追うのが精一杯で、文レベルで意味まで把握できていない事も多い。音読より黙読の方が意味を把握し易い人もいます。読む学習には、学習者が本当に内容を理解しているかの観察を忘れないことが必要です。

■何故学習者は途中で辞めてしまうのだろうか

学習者は、ある段階まで学習すると、これまでの学習の成長と比べ、自分の伸び・進歩が感じられなくなる段階が来てしまい、特に初級Ⅱの半ばで挫折する人も多いようです。だから、学習が継続出来るように、どの位の(中長期で示す)期間で、どの程度まで上達し力がつくかゴールを学習者に最初に示し、擦り合わせることでモチベーションを上げます。

■日本語が上手いと思える外国人はどんな方か

多くの言葉・意味・文字、文法をよく理解して使いこなし、正しい発音ができる方も勿論そうですが、日本語的発想で場、雰囲気に応じた伝え方や間の置き方ができる方(適切な社会言語能力)。言いたいことが出てこない時に、「と言いますと・・・」など話し相手を利用誘導して回り道しながら、その言葉や意味を引出すことができる語用能力の高い方も上手いと思えます。

■長年日本に住んでいる方の日本語

不自由なく日本語を話している方に、その表現が日本人には、あまり丁寧に聞こえていないですよという事を伝えると、ご本人は、全く丁寧にしゃべっているつもりだったとのことで、とっても驚かれました。「そんなこと言われたこと初めてです。」 「日本人は、気になっても、あまりそういう事を言わないですよ。」その方は、話し方をとても懸命に修正された様です。

普通体が混じったり、誤用表現や少し気になる仕草がある外国人居住者。意外と、ご本人は、いつも丁寧に話して、きちんとしているつもりなのかもしれないと感じました。

（橋本 尚登）

◆たくさんのお料理を囲んで交流会

寒さの厳しい12月21日にKFC日本語プロジェクト交流会がデイサービスセンターハナの会で開かれ参加させていただきました。日本語学習者と支援者、その家族の合わせて20名の方が参加されました。

学習者、支援者の有志の方々が作って下さった韓国、ベトナム、日本の料理がテーブルいっぱい並べられ、大学いもなどのデザートも用意されていました。学習者のひとは、家ではこんないろいろな料理はしないからと喜んでおられました。

食事の後は、支援者のひとは手品を披露してくださいました。緊張のせいでしょうか、失敗続きにも温かい拍手。何の芸もない私はかくし芸をお持ちの方がちょっぴりうらやましく思いました。その後は輪になってビンゴゲーム。ビンゴになった方にはお菓子、靴下、カレンダーなどの景品まで準備されていました。なかなかビンゴにならなかった小さい子も景品のお菓子をもらってにっこり。

日頃なかなか会う機会の少ない学習者や支援者の方々とお話しすることができて楽しい時間を過ごさせていただきました。

準備をして下さった皆様ありがとうございました。（石川 明子）

■■■KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

◆子どもたちの2014年のよかったこと、わかったこと、2015年の目標

学習に来ているベトナム、中国、フィリピン、ロシア、コロンビアにルーツを持つ子どもたちに、2014年のよかったこと、わかったこと、2015年の目標を書いてもらいました。

子どもたちが今年できるようになったことや自分のした悪いことを自覚している様子も知ることができました。

今年も、それぞれ充実した1年になりますように。。。

2014年

○よかったこと

<小学生>

- ・学校の休み時間が楽しかった(1年生)
- ・おたんじょうびにおめでとうといってもらった(1年生)
- ・てつぼうでこうもりができた(1年生)
- ・べんきょうもやすみじかんもたのしかった(1年生)
- ・ともだちがいっぱい(1年生)

- ・ジェラシックパーク(1年生)
- ・かけざん(2年生)
- ・九九マスタークリアできた(2年生)
- ・毎日一生懸命日本語の勉強に行っていること。クラスのみんなとなかよくできるようにがんばりました。(3年生)
- ・まやさんにのぼったこと(3年生)
- ・ドッチボールが6年生と一緒にできるようになった(3年生)
- ・ユニバーサルに行けた(3年生)
- ・たんじょうびにシールを3こもらったこと(3年生)
- ・こうがいぐしゅうのおべんとうがおいしかった。(4年生)
- ・神戸マラソンに絵が選ばれたこと(4年生)
- ・図工でちょうこく刀を使って自分の絵を

木の板に掘りました(4年生)

- ・体育でフラッグフットボールで作戦を作っていた(4年生)
- ・日本語が少しわかるようになりました。書く字がきれいになりました(4年生)
- ・せんせいにしゃかいテスト100てんでほめられた(4年生)
- ・ヒットを9本うった(5年生)
- ・いろいろな人に出会った(6年生)
- ・学校が楽しく思えたこと。悪口を卒業して心が清くなったこと(6年生)
- ・夏休みにふうりんを作ったこと(6年生)
- ・人間関係がすごくうまくいった。世界平和ポスターでえらばれた(そこまですごい賞じゃない)。個性的ないつめん(いつものメンバー)ができた。修学旅行は友達の色々な一面を見つけることができた(6年生)
- ・日本のべんとうがおいしかった。ともだちがたくさんできたこと(6年生)
- ・先生にぼう言をはかなかった(6年生)
- ・木、金、遊びがいっぱいもらえたり、買えたりしたこと。よく発表できたこと(6年生)

<中学生>

- ・やめなかったこと(KFCを)(中2)
- ・学校の部活動で部長らしいことをやったこと(中2) ・いろいろ(中2)
- ・数学をがんばりました(中2)
- ・五教科438点とれました(中2)
- ・勉強するとき、しゃべらなかつた。(中2)
- ・いろいろおもしろかつたです(中2)
- ・集中してとり組みました(中3)
- ・部活から勉強への切り換え(中3)
- ・暗記(中3) ・テスト勉強(中3)
- ・遅刻にならないようにがんばりました(中3)
- ・中3だったので、いろいろといそがしかつたです。勉強を頑張りました。とくに社会をがんばりました(中3)

○わるかつたこと

<小学生>

- ・音楽の授業で友達とケンカをした(1年生)
- ・わすれものをしたこと(1年生)
- ・がっこうでけいさんをもっとはやくしてといわれた(1年生)
- ・おんどく(2年生)
- ・ひどいことを言った(2年生)
- ・日本語がまだわからないこと。意見をまだ言えないこと。(3年生)
- ・さか上がり(3年生)
- ・ともだちがいじわるした(3年生)
- ・たんじょうびのときにももらえなかつた(3年生)
- ・ママにたくさんおこられた(3年生)
- ・さんすうがにがて(4年生)
- ・まだ泳げないこと。運動会の時、上手に走れなかつたこと(4年生)
- ・たまにとなりの人とはなす。たまにしゅくだいをわすれる(4年生)
- ・クラブのときは、ぬのエプロンでさるマークのきるのがめんどう(4年生)
- ・算数の概数がわからん(4年生)
- ・ドッチボール大会で負けたこと(4年生)
- ・きついことばをいった(4年生)
- ・あばれた(5年生)
- ・しゃべつとつた(6年生)
- ・わがままだつたこと(6年生)
- ・せいせきはあまりよくない気がする。先生の話聞くことをわすれて、みんなとまったくちがうことをしてしまつた。ピアノの練習をそんなにしていなかつた(6年生)
- ・かんじはむずかしいこと(6年生)
- ・私がしゃべりすぎて他のかたがたにご迷惑をおかけしました。大変申しわけありません(6年生)
- ・漢字や計算の仕方をわすれてしまつたとき。「思いやりがない」とおこられた(6年生)

<中学生>

- ・休みすぎ・・・(中2)
- ・数学をきちんとできなかったこと(中2)
- ・ずっとしゃべっていました(中2)
- ・苦手な教科をこくふくできなかった(中2)
- ・あまり勉強できなかった(中2)
- ・来ない日が多くなった(中2)
- ・勉強をしっかりしなかったこと(中2)
- ・あんまり勉強していないから、ちょっとずつしたいです(中2)
- ・しゃべりすぎた(中3)
- ・学校にギリギリに着いてたこと(中3)
- ・その場だけの勉強になっていた(中3)
- ・勉強をもっとがんばりたい(中3)
- ・数学がニガテだったのに、ほとんど勉強しなかったことです(中3)

2015年

○がんばりたいこと

<小学生>

- ・クリアガリ(1年生)
- ・てつぼうのさかあがり。(1年生)
- ・けいさんをはやくする(1年生)
- ・てつぼうで、ふとんほしからつばめを百かい連続したいこと(1年生)
- ・学校の宿題(1年生)
- ・たいいくです(1年生)
- ・つくりかたを知ること(2年生)
- ・わりざん(2年生)
- ・日本語を上手に使えるようになること。泳ぐこと、走ることが上手にできるように(3年生)
- ・すぶたをたべれるように(3年生)
- ・ゴーヤとピーマンをたべれるように(3年生)
- ・さか上がり(3年生)
- ・漢字をおぼえる(4年生)
- ・弟よりもおとしだまをもらうこと(4年生)
- ・日本語の勉強。ボールを上手に投げる。日本語の本を読めるように(4年生)
- ・りくじょうがんばりたい(4年生)
- ・べんきょうをがんばる(4年生)
- ・全部の教科(4年生)
- ・日常を楽しくすること(4年生)
- ・べんきょうをちゃんとやる(5年生)
- ・漢字をおぼえる!(6年生)
- ・大好きなゲームを消したから、勉強に専念したい(6年生)
- ・中学生になってもべんきょうやぶかつをがんばる(6年生)
- ・来年は「中学生!」あそびよりも勉強優先でがんばっていききたい。反抗期にであわないようにしたいです。親の事をほこりに思ってお金をむだづかいしないように心がける(6年生)
- ・空手とべんきょうをがんばります(3,6年生)
- ・ごめいわくをおかけしない。今までやってきためいわくの原因をつつしもうと思います(6年生)
- ・テストで「毎回」100点とること(6年生)

<中学生>

- ・数学ががんばる!!(中2)
- ・しゃべらず数学やって点数UP♪ 志望校へ行く!!ための学力をつける!!(中2)
- ・志望校にいける学力をつける!!(中2)
- ・数学と英語の点数をあげること!(中2)
- ・テストの点数を上げる(中2)
- ・お年玉がもらえますように!!クリスマスプレゼントがたくさんもらえますように。雪がふりますように(中2)
- ・高校にいけるようにがんばってみる!(中2)
- ・受験勉強をがんばる(中2)
- ・高校に入ったら赤点をとらない(中3)
- ・基礎をしっかりつくる(中3)
- ・勉強と漢字と日本語を全部上手になるようにがんばりたい(中3)
- ・ニガテをつぶす!間違えた問題を何回もやって、できるようになる!(中3)
- ・合格(中3)
- ・5教科の点数を上げる!!(中3)

■■■ ベトナム人高齢者支援事業 ■■■

◆秋の社会見学会

KFCでは昨年度より、自宅で孤立しがちなベトナム人高齢者に対して、各種支援事業（生活状況聞き取り・家庭訪問・交流会・外出支援・介護保険利用支援など）を実施しています。

今年度も、月1回第3木曜日に定期的な交流会を実施しており、毎回10数名の方々に参加されています。今回、この支援事業の一環として、兵庫県国際交流協会民間国際交流事業助成を受け、11月20日（木）、京都・神戸への社会見学会を実施しました。

当日は晴天に恵まれ、ベトナム人高齢者及びその家族16名が参加されました。マイクロバスを利用して京都の金閣寺・東寺を観光後、神戸の阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターを見学するという少々ハードなスケジュールではありましたが、皆さん、体調を崩されることなく、遠方への外出機会を楽しめました。

秋の京都、特に金閣寺は紅葉狩りの観光客であふれており、参加者の皆さんははぐれてしまわないかハラハラしましたが、スタッフの心配をよそに、ベトナム人高齢者・家族の皆さんは要所所で写真撮影やお参りをされ、はぐれることなく、境内を一周されました。観光客が多かった上に、境内全体の敷地が広く、坂や段が多かった為、ゆっくりと紅葉や庭園・建物を楽しむことが難しく、慌ただしく移動せざるを得なかったのがやや残念ではありましたが。金閣寺参拝後、東寺へ移動し、昼食。昼食後は幾つかのグループに分かれて東寺境内を拝観しました。東寺は金閣寺に比べると観光客が少なく、ゆっくりと庭園を散策したり紅葉狩りを楽しんだりすることができました。金閣寺に比べると「地味」な風情の東寺は、ベトナム人高齢者・家族の方々にとっては退屈な面もあったようで、予定を少し早めて出発することになりました。

京都を出て神戸へ向かう車中では、皆さんお疲れのご様子でしたが、普段はなかなか交流機会がない為か、ベトナム語での会話に花が咲いており、大笑いされている姿が印象的でした。また金閣寺でも東寺でも、参加者同士が気遣い合って行動されており、特により高齢の方に対する敬意を強く感じました。

渋滞に会う事なく、最後の見学先である人と防災未来センターに到着。神戸に長く在住されていても、このセンターに来たのは初めてという方も多く、初めて見る映像や各種資料に驚かれていました。センター見学後、新長田まで戻り、解散。9時集合、17時解散という長時間の日帰り旅行ではありましたが、皆さんにごやかに帰途に着かれました。

今回の社会見学会では、「秋の京都の紅葉を楽しみ、自然・文化・歴史に触れる」「防災意識を高める」という目的と同時に、ベトナム人高齢者・家族同士の交流機会を提供することや、日常の中に何か楽しみとなるものを提供することにも重きを置いており、その意味でも有意義な1日になったのではないかと思います。

介護保険等、公的な社会保障制度を利用することに遠慮や抵抗感を示すことが多いベトナム人高齢者・家族の方々ですが、今回のような社会見学会や、定期的な交流会等を通じ、高齢者への支援施策について、少しずつ理解を深めていっていただけたらと考えています。（吉本 直子）

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆『追捕』の感想

KFCの映画鑑賞会で『追捕』（邦題：君よ憤怒の河を渉れ）という古い映画を見ました。

この映画の時代は、私はまだ中年で、文化大革命もそろそろ終息する頃で、中国と日本の国交回復をしたばかりの時でした。思い出すと感無量です。文化大革命は中国と外部のつながりを断ちました。ここで外部とは帝国主義と資本主義の国々を指しています。当然、これは政治家たちの学説であり、いま、帝国と資本をすでに言わなくなりました。当時、『追捕』、『ああ！海軍』、『山本五十六』のような映画がありました。外部との文化交流が全く隔絶された時代に、これらの映画は当時の中国で大ヒットでした。今、思い出しても依然として感動させられます。日本ではきっとこのような「素晴らしい」映画が見られるという気持ち、言葉に表現できないような気持ちで1986年来日しました。日本では暇な時に、思いがけない素晴らしい映画が観られると思いこんでいましたが観られず、がっかりしました。

来日してからそろそろ30年になります。この30年の間に当時中国で観た「素晴らしい」映画は一度も見られませんでした。日本社会も「裕福な社会」から消費税すら出したくないくらい困窮社会になっています。私たちの年齢層の人々は幸運でありながら不幸でもあり、このような変容のプロセスを経験してきました。

『追捕』を観たばかりなのに、不幸なことがありました。映画で杜丘を演じる高倉健さんがお亡くなりになりました。私の世代の人にとって、とても残念なことです。彼の存在は私のような世代の人々にとって時代を飾った名優でした。（治井 吉成）

■■■ ハナの会 ■■■

◆開設10周年～「ハナの会の歌」への感謝とともに～

あけましておめでとうございます。

2014年の最終の三月は離宮公園への遠足、運動会、小学生との交流会、クリスマス会など行事が沢山行われ、多くの関連団体やボランティアの方から協力を得ながら幸せな年末を迎えました。また、日々のレクリエーションの中でも、識字活動、趣味や文化の交流などを楽しんで来ました。

2015年は開設10周年を迎えます。利用者の多様化が一層進むことが予想され、多様なニーズに対応してハナの会の強みを生かし、必要な方へ支援を行っていきたくと思います。特に、文化や習慣等により、一般の施設などで馴染まない最も孤立しやすい方々への支援を強化して行きたいと思っています。これは、多様な文化背景を持つスタッフがハナの会に関わることによって生まれた特殊な対応力があるからこそできるものだと思っています。スタッフたちと協力しながら、楽しいハナの会を引き続き盛り上げて行きたいと思っています。また、利用者さんもハナの会で何かお手伝いをできるかと聞きながら、珈琲をたててくれたり、飾りを作ってくれたり、そして入院中に「ハナの会の歌」を作ってくれた方がいます。この歌にある歌詞「楽しいよ、ハナの会」から勇気を貰い、使命感を感じ今年もスタッフ一同皆様と協力しながら頑張りたいと思っています。

◆ハナの会の歌

花本 菊子（朱 福 先）

一、ハナの会って楽しいよ

おはよう おはよう みんなおはよう

今日も 一日頑張ろう

健康体操 一、二、三

アリラン歌って 楽しいよ

二、ハナの会って楽しいね

老いも若きも 輪になって
心を許して 遊べるよ
お昼のお食事 楽しみよ
食事が終わると 昼寝です

三、ハナの会って楽しいよ
昼寝が終わると カラオケよ
三時のおやつは何かしら？
今日も一日ありがとう
さよなら、さよなら、また明日

■■■ グループホーム ハナ ・ 小規模多機能型居宅介護ハナ ■■■

◆介護は体力とコミュニケーション能力が必要！

私は今19歳です、10月からグループホームハナで働くようになりました。

介護という仕事について、僕は始める前の印象は、「きつい」「汚い」「給料が安い」でした。

それまで全く違った動物の専門学校に通っていた僕にとって、同時に本当に介護という仕事を続けていけるのかしらという不安もありました。しかし、今の時代、世間では「高齢化社会」と言われ、介護を必要とする方が沢山いるのに介護する側の人手が足りず、きっと将来、役に立つ日が来ると思いました。

実際、働いてみて予想以上にとっても体力が要り、コミュニケーション能力が必要でした。利用者の方がどうしたら喜んでくれるのか、今何を必要としているのか考えることが沢山ありました。特にはじめは利用者の方と、どのようにして接したらいいのかという事に悩みました。

しかし日が経つごと、利用者との距離が少しずつ縮まり、オムツを変えることやお風呂を入れることにも慣れてきたと自分では思っています。またスタッフの方も優しくわかりやすく指導をしてくださり、とても働きやすい所だと思っています。

今後はもっと知識を増やし、立派になったと認めていただけるよう努力していこうと思っています。専門学校を辞め迷惑をかけてしまった親に、必死で働くことで返していきたいと思っています。

最後にお金を稼ぐということは本当に大変なことだと改めて思い、お金のありがたみも分かりよかったですと思います。これからもがんばります。

(木村 翔悟)

◆小さな力でもゼロにならないように頑張ります

私は宋翠玉と申します。9月15日にグループホーム ハナに入社しました。中国人です。

介護施設ハナの一員となつてとてもうれしかったです。(現在は小規模多機能で働いています)

一番気にしている事はハナの先輩たちが優しいのと、丁寧語、尊敬語をきちんと使っていることです。これから私も言葉遣いに気をつけて利用者様に対応をしていきたいです。

ハナの一員としての自覚を持って、小さな力でもゼロにならないように頑張っていきたいです。

介護の責任を持って自分の能力をたくさん出して仕事をしっかりしていきたいと思っています。利用者様に満足していただけるような心のこもった介護者になりたい。

これからも小規模多機能ハナの皆さんどうぞよろしくお願いします。(宋 翠玉)

■■■ 今後の予定 ■■■

■日本語プロジェクト

- 1月10日(土) KFC研修会
- 1月20日(火) KFCの帰国者活動について
- 1月31日(土) 研修会「学習記録簿」
- 2月21日(土) シンポジウム「地域日本語教室のあり方を考える」

■音楽で紡ぐアジア共生のつどい

1月18日(日) 於 ピフレホール

■就学前の子どものプレスクール

1月17日(土)～3月28日(土)
※3月7日(土)を除く

新長田教室：10：30-12：00

はいず教室：14：00-15：30

■デイサービスセンターハナの会

1月27日(火) 28(水) 10周年記念のつどい